

平成21年度 医療問題特別委員会行政視察報告書

平成22年1月22日

- 1 日程 平成21年11月26・27日
- 2 視察先 岩手県久慈市 県立久慈病院
- 3 視察事項
 - ・救命救急センターの運営状況について
 - ・地域医療の実態について
- 4 視察者 一行9名
委員長 樋口浩二・副委員長 亀山重光
委員 大平一貴・森川 豊・森山一理
高井 保・高橋禧雄
同行 近藤直樹 健康課参事
随行 美原弘美 議会事務局主査
- 5 応対者 阿部 正 院長・高橋 広 総務課長 他3人

【久慈市の概要】

久慈市は、人口 39,141 人（国調）、面積 623.14 km²、県北部の太平洋岸に位置し、海洋性気候で内陸部に比べ夏は涼しく、冬は降雪量が少ない。生活面では青森県八戸市と結びつきも強く、北限の海女、国内最大の琥珀の採掘産地として有名。06年3月に山形村と合併し、新「久慈市」となった。

【県立久慈病院の概要】

県立久慈病院は、久慈市北東部に位置し、人口 67,000 人の久慈医療圏で唯一の中核病院で、平成10年3月に救命救急センターを併設し、地域完結型の病院として、高度で良質・安全な医療の提供と信頼される病院を目指している。

- ・所在地 岩手県久慈市旭町第10番地割1番
- ・開設者 岩手県知事 達増拓也
- ・沿革 昭和32年8月 岩手県立久慈病院と改称
昭和46年2月 市立中央病院と統合、久慈市中町に新築移転開院
(一般病棟270床、結核80床)
昭和57年3月 救急病院の指定を受ける。
平成9年11月 新久慈病院竣工
平成10年3月 現在地に新築移転開院。救命救急センター併設。
(358床:一般330床、救命救急20床、伝染8床)
平成15年6月 3西病棟を回復期リハビリテーション病棟へ変更。
(352床:一般275床、救命救急20床、
回復リハ43床、伝染4床)

平成 15 年 10 月 単独型臨床研修病院の指定を受ける。

平成 18 年 4 月 単独型臨床研修病院から管理型臨床研修病院へ変更。

- ・病院理念 当院は、岩手県立病院の基本理念「県下にあまねく良質な医療の均てんを」にのっとり、良質で安全な医療を提供し、患者さんとのふれあいに満ちた信頼される病院をめざします。
- ・病床数 342床【一般 295床（うち救急病床20、集中治療室6床含む）、療養43床（回復リハビリテーション病棟）感染4床】
- ・診療科目 20科（内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、神経内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科）
- ・患者数（平成19年度）
 - 入院 97,936人（1日平均 268人）
 - 外来 233,844人（1日平均 955人）
- ・収支状況（平成20年度）
 - 収益 60億5千9百万円
 - 費用 63億4千2百万円 損益▲2億8千3百万円
 （但し、累積損益は 50億6千1百万円）
- ・医師・職員数

（平成21年11月1日現在）

職 種	正規	臨時	計	備 考
医 師	31	24	55	臨床研修医 13人含む
薬 剤 科	10	4	14	薬剤師
診療放射線科	12	1.5	13.5	診療放射線技師
臨床検査科	14	1.75	15.75	臨床検査技師
看 護 科	218	42.21	260.21	看護師 220.68人 准看護師 10.73人 他
歯科衛生士	1	1.9	2.9	
視能訓練士	2	0	2	
臨床工学技士	2	0	2	
リハビリテーション科	13	0.75	13.75	理学療法士 7人 作業療法士 5人 言語聴覚士 1人 他
栄 養 士	4	0	4	
医療安全管理専門員	1	0	1	
医療クラーク	0	12	12	
そ の 他	26	9	35	事務局・調理師 等々
合 計	334	97.11	431.11	

【救命救急センターの概要】

- ・センター運営開始年月日 平成10年3月1日
- ・センター病床数 20床（ICU 6床）
- ・センター従事職員数
(平成20年度)

医師	専任	2人	兼任	41人
看護師	専任	25人	兼任	18人
薬剤師	専任	1人	兼任	8人
検査技師	専任	2人	兼任	23人
事務員他	専任	3人	兼任	23人
合計	専任	33人	兼任	113人
- ・センター収支状況
(平成20年度)

収入	553,700千円		
支出	655,251千円	収支差	▲101,551千円

(国庫補助額 86,395千円)
- ・センター患者実数（平成20年度）

入院	1,184人	・外来	11,122人
----	--------	-----	---------
- ・救急自動車搬送受入人数（平成20年度） 1,384人

【院長コメント】

- 1 救命救急センター維持には課題が山積
 - ①当初45人の常勤医師が31人に
常勤麻酔医がない・常勤産婦人科医が1人・呼吸器科医が1人に
 - ②なんでも診てくれる、センターへの過度の期待
当直回数月3～4回・超勤時間50時間～100時間
 - ③スタッフとしては「救命救急センター」の看板を降ろしたいというのが実態。
- 2 そんな状況で、なぜ「救命救急センター」を維持できているか
 - ①13人の研修医の働きが大きい
救急科専門医指定施設なので、救急専門医の資格を取れるための実績となる。
(現在専門医は4人)
 - ②センター補助金が入る 1億円位
- 3 病院が生き残るために
一番は「常勤医を大事に扱いやめさせないこと」そのために
 - ①研修医をたくさん採用する。
 - ②医療クラーク（医療秘書）をたくさん採用する
岩手県では県立病院で100人～150人に増員（久慈病院は現在12人）
 - ③女性医師の環境整備
女性研修医の採用
 - ④日替わり応援医師の確保
常勤医師が息抜きできる（盛岡市から応援を求めている）

- ⑤学会・研修会参加の手当を充分出すこと
研修費の捻出（活性化予算＝４００万円）
- ⑥専門医・認定資格を取得できる環境をつくる
施設認定を取る（救急専門医・各科専門医指定施設→研修医も集まってくる）
- ⑦楽しい病院に
月例医局会（懇親会付）の開催
（楽しい病院には研修医が集まってくる・常勤医はやめない）
- ⑧行政と住民を味方に
市の広報に県立病院の大切さ、大変さを掲載してもらう
- ⑨医師会とうまくやる
医師会の理解により、医師会が応援してくれる
※以上の内容で、久慈病院はなんとか生き残れている。

4 救命救急センターについて

- ①救命救急センターを作るのであれば、６００床は必要でないか。
救命救急センターは、診療科がある程度揃わないとダメ。
３００～４００床は中途半端。４００床以下であれば、診療科を特科。
医師は、５０人位必要ではないか。
- ②１次は当番医への指導はしている。（広報・講演会などで）
その結果、これまでの１日の救急患者が３０人から２０人に減った。

【所 感】

岩手県立久慈病院は、一般病床数２７５床で救命救急センターを併設し、久慈医療圏で運営・経営している中核的総合病院として地域での役割を果たしており、現在までの累積黒字は５０億円と経営面では相当の努力をしているものと思われる。

例えば、医師の確保が重要であるため、学会研修会の参加手当を十分にだすことや、日替わり応援医師を確保、女性医師の環境を整備、女子研修医を採用することによって女子医学生を連れてくるなど、努力を怠らない積極的な取り組みに対し頭が下がる思いです。

病院の運営・経営にあたっては、医師の育成が重要な課題であることを再認識いたしました。加茂・田上地域に、このような中核的総合病院が構築できればと期待するものです。

視察に同行した諸氏に感謝申し上げます。